

北海道デジタル人材育成推進協議会 ～2024年度取組報告・2025年度事業方針案～ (事務局資料)

2025年3月6日

(本資料のお問い合わせ先)

経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課
課長 佐々木 信之 (担当：天内、矢野、鈴木)

電話：011-709-2311 (内線2566)

E-mail：bzl-hokkaido-seizojoho@meti.go.jp

1.北海道デジタル人材育成推進協議会の取組

- 北海道経済産業局は、産業界、教育機関、行政機関等で構成する「北海道デジタル人材育成推進協議会」を2023年3月に設置（地域ブロックでは全国唯一）。
- 本協議会では、デジタル田園都市国家構想で掲げる、2026年度末までにデジタル人材230万人育成に寄与するために、北海道から優秀なデジタル人材を数多く輩出するとともに、今後の道内デジタル産業の発展のためにこれら人材の地元就職も強化。

1.デジタル人材のターゲティングとカリキュラムの検討【取組1】

「産業界が求める人材」と「教育界が育てる人材」のマッチング及び本協議会で扱うデジタル人材像の設定

双方人材像・ニーズの適合性の確認・可視化・調整

2.デジタル人材育成機能の強化【取組2】

- 主な取組
- (1) カリキュラムの強化
 - ①「既存PBLケースバンク」の設置、及び大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチングによる新規「課題解決プロジェクト」の実施
 - ②大学等におけるデジタル関連の教育プログラムの強化 など
 - (2) 大学等への実務家教員派遣の仕組みの構築
 - ①実務家教員派遣希望に対する企業マッチングの実施
 - ②実務家教員による講義の動画コンテンツの制作 など
 - (3) 道内企業（社会人）のリスキングの推進
 - ・教育界のリスキングの概要、既存人材育成メニューの情報発信 など

3.道内企業への就職促進【取組3】

- (1) 道内学生と企業との接点拡大の取組
 - ・「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージの実施
 - ①教員向け合同企業説明会「教員×企業」
 - ②実践的インターンシップ「学生×仕事」
 - ③焚火トーク「学生×経営者」
 - ・北海道大学実施のプログラムとの連携 など
- (2) U・I・Jターン希望者への情報発信

4.参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用【取組4】

参画機関一覧（順不同）

※2025年3月6日現在

教育機関	1	国立大学法人北海道大学	教育機関	16	北星学園大学
	2	国立大学法人室蘭工業大学		17	函館工業高等専門学校
	3	国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学		18	苫小牧工業高等専門学校
	4	国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学		19	釧路工業高等専門学校
	5	国立大学法人旭川医科大学		20	旭川工業高等専門学校
	6	国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学	産業界	21	北海道経済連合会
	7	公立はこだて未来大学		22	一般社団法人北海道商工会議所連合会
	8	公立千歳科学技術大学		23	一般社団法人北海道IT推進協会
	9	札幌市立大学		24	一般社団法人北海道機械工業会
	10	旭川市立大学		25	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
	11	札幌大学	行政機関	26	北海道
	12	札幌学院大学		27	札幌市
	13	北海学園大学		28	文部科学省（高等教育局 専門教育課）
	14	北海道科学大学		29	経済産業省（商務情報政策局 情報技術利用促進課）
	15	北海道情報大学	事務局		経済産業省北海道経済産業局（地域経済部 製造・情報産業課）

2024年度取組報告

2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】

①「既存PBLケースバンク」の設置

- 本協議会に参画する大学・高専における既存PBLの情報を収集・整理し、2025年度の新規PBL希望調査に合わせて、**2024年10月2日から公開**
- サイト名は「**北海道PBLケースバンク**」
- 本協議会参画機関への**限定公開**
- 5校7講義分**を掲載（2025年3月6日現在）

室蘭工業大学	情報学PBL演習
	計算機システム特論
北見工業大学	情報通信・データサイエンスリサーチ
	プログラミング入門Ⅲ
はこだて未来大学	システム情報科学実習
札幌大学	データサイエンス演習Ⅱ
北海道大学	課題解決プロジェクト



- ケースバンクへの掲載は随時対応

〈資料1〉「北海道PBLケースバンク」掲載内容（一部抜粋）

2023年度

札幌大学

データサイエンス演習Ⅱ

データを用いた課題解決の手法を、実際の店舗での実践を通して経験し、それに関する知識や技術を網羅的に獲得することを目標とする。また、学生が大学での活動の中の“就職でも話せる”実績のひとつとして、本講義での取り組みを活用できることを目指す。
なお、本講義は、本学の新しい教育プログラム「サツダイ：みらい志向プログラム」の一つ、データサイエンス「魁」プログラムの開講にあわせて新設された科目となる。

キーワード Python、データ分析、データを用いた課題解決、フィールドワーク、課題解決提案

ビジネス
素養

実課題
実データ

NDA
契約

実務家
教員



①対象者／受講人数	本学学生／4名
②開講時期／コマ数	前期／15コマ
③担当教員	非常勤講師 安田 光喜
④講義形式	座学＋フィールドワーク
⑤講義の到達目標及びテーマ	■到達目標 データサイエンスを実践を通して経験し、それに関する知識や技術を網羅的に獲得する。 ■テーマ データを用いた課題解決の手法（データサイエンスの一部）を、実際の店舗（サッポロドラッグストアー札幌大前店）での実践を通して学ぶ。
⑥講義内容	講義全体の前半にデータサイエンスに関する基礎知識の座学と、必要な技術の講義を行う。必要な技術とは、例えばデータ分析を行うためのPython言語や、データの整備、可視化を行うための表計算ソフト、BIツールなどを指す。 後半には、実際にサッポロドラッグストアーの店舗（札幌大前店）に協力いただき、フィールドワークを通して①調査・ヒヤリング②課題発見③データ収集を行い、教室で④データ整備⑤データ分析⑥データの有効性の証明、可視化までを行い、それをまた実店舗にフィードバックするという『データサイエンス』の流れの一部を実践ベースで経験し、それに関する知識や技術を獲得することを目指す。
⑦ビジネス素養の有無	あり
⑧ビジネス素養育成の内容	はじめにPythonを用いたプログラミングの技術や分析方法を学ぶ。その後、生の店舗データを用いた分析の内容と、実際に自分の足でフィールドワークを行って獲得した知見を融合し、1つの課題解決提案を行う。課題発見から課題解決提案までのスモールなフローを一通り体験することで、課題解決のモデルを体験し、さまざまなビジネス素養を身につける。

⑨民間企業の実課題や実データ等の活用有無	あり（実課題）
⑩NDA（秘密保持契約）の有無	なし
⑪実務家教員の活用の有無	あり
⑫学生の反応	・ プレゼンでは、プライベートブランド（PB）商品やフードロス、ポイント制度の活用など、それぞれの視点から、店舗の抱える課題解決案を発表。 ・ 発表後には、プレゼンを聴講していた、サツドラ西岡札幌大前店のスタッフの方やサツドラホールディングス株式会社、本学関係者からの質問や意見を受け、自身が考えた課題解決案へのさらなる改善点を見出した。 ・ データの活用やスライドの作成など、慣れない作業の中プレゼンをまとめあげた学生へ、聴講者からも大きな拍手が送られ、学生にとっても今後に繋がる有意義な経験となった。 本学ホームページより https://www.sapporo-u.ac.jp/news/su-news/2023/08101735.html

最終プレゼンの様子



2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】

②大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチング

《2024年度の実績》 1校2講義 学生20名受講

学校名	講義名	開講日	対象	実課題提供企業名
北海道大学	課題解決プロジェクト	6月12日、6月19日、6月26日、7月3日	博士課程大学院生	萩原建設工業（株）（帯広市）
		6月5日、6月12日、6月19日、6月26日、7月3日		日本電気（株）北海道支社（札幌市）及びデジタル・ガバメント推進統括部（東京都）
	課題解決プロジェクト	2月20日、2月21日	博士課程大学院生	日本電気（株）北海道支社（札幌市）及びデジタル・ガバメント推進統括部（東京都）、NECソリューションイノベータ（株）北海道支社（札幌市）、FPTジャパンホールディングス（株）札幌ニアショア開発センター（札幌市）

【参考】日本電気（株）が本取組を紹介した記事
<https://wisdom.nec.com/ja/feature/government/2024102101/index.html>



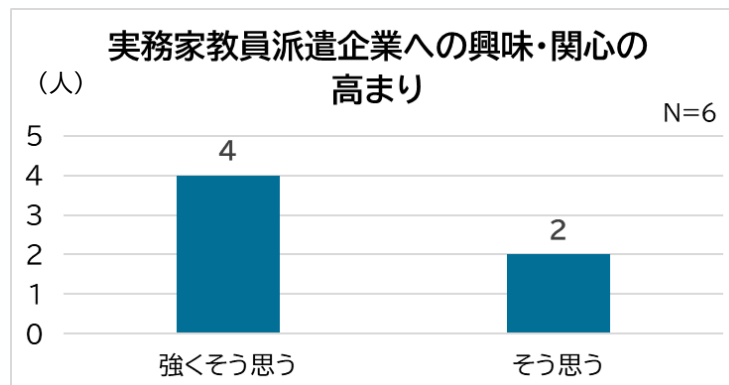
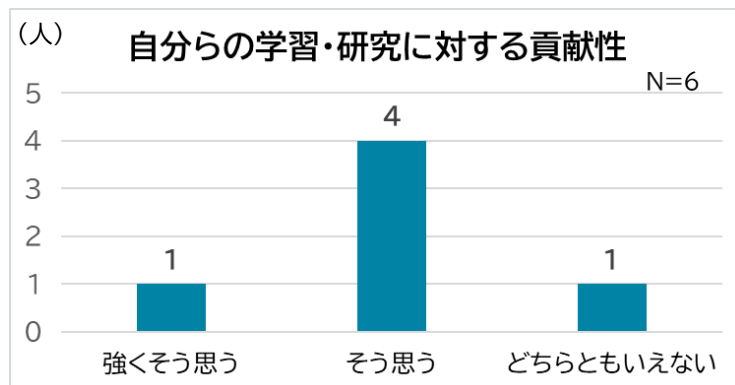
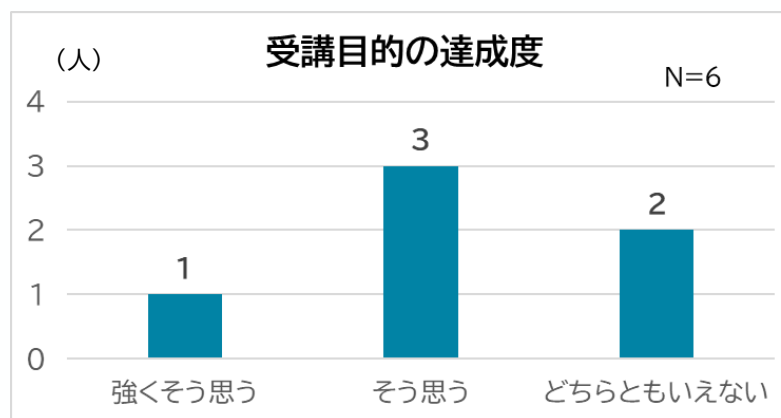
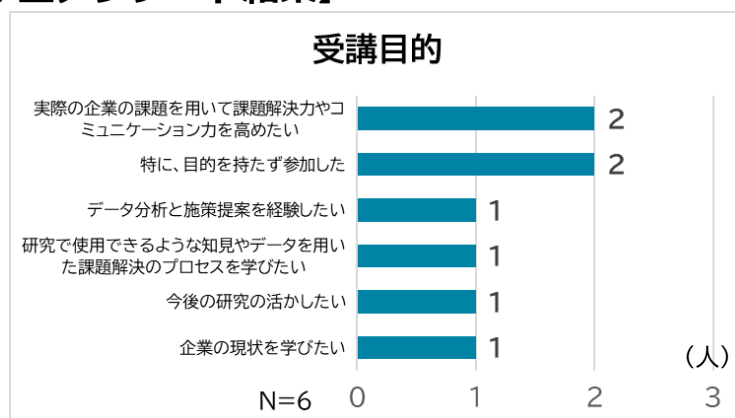
《2025年度の希望講義》 2校2講義 学生40名受講予定

学校名	講義名	前期/後期	対象	新規/継続
北海道大学	課題解決プロジェクト	後期	博士課程大学院生	継続
苫小牧工業高等専門学校	宇宙科学概論	前期	第4学年	新規

〈資料2〉 大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチング アンケート結果

- 学生は、施策提案の一連の流れを体験できたなどと回答しており、**企業参画によるPBLの学習効果は高いものがあった**。また、PBL内での学生と企業との双方向性が企業理解のきっかけとなったとコメントがあり、**学生の企業に対する関心を高める効果も**。
- 一方、企業はPBLを行うにあたって、**提供する内容の難易度が適切か、企業の業種と受講生の専門との間にある溝をどう埋めるかなど、情報提供内容について不安が見られた**。

【学生アンケート結果】



※本結果は、2講義分のアンケート結果を単純に積み上げたものです。そのため、講義ごとに内容やレベルが異なり、また受講した学生もそれぞれ異なることから、直截的な解釈は避け、参考値としてご覧ください。

2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】

③大学・高専への実務家教員の派遣に係るマッチング（2024年度）

《2024年度の実績》 6校8講義 学生795名受講

学校名	講義名	開講日	対象	実務家教員派遣企業名
北海道大学	データ活用入門A	8月6日	学部2～4年次 (大学院生)	日本電気（株） 北海道支社(札幌市)
北見工業大学	情報セキュリティ基礎	6月5日 7月3日	学部2年次	北海道ガス（株）(札幌市)
	情報セキュリティ特論	6月24日	博士前期課程1年次	(株) 澄川工作所(北広島市)
	ソフトウェア工学	11月21日	情報デザイン・コミュニケーション工学コース 学部3年次	(株) インセンブル(札幌市)
北海学園大学	計算機実習Ⅱ	10月18日 10月31日	学部2年次	NECソリューションイノベータ（株） 北海道支社（札幌市）
北海道科学大学	ソフトウェア工学Ⅱ	1月8日	工学部情報工学科 3年次	(株) エルムデータ（札幌市） 雪印メグミルク北海道支社（札幌市）
苫小牧工業高等 専門学校	道内DX企業見学会 ＜資料4＞参照	2月13日	第2～3学年	石屋製菓（株）（札幌市） 伊藤組土建（株）（札幌市）
旭川工業高等 専門学校	数理・データサイエンス	2月5日 2月7日	第3学年	エコモット（株）（札幌市）



2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】

③大学・高専への実務家教員の派遣に係るマッチング（2025年度）

《2025年度の希望講義》 7校12講義 学生1,195名受講予定

学校名	講義名	前期/後期	対象
北海道大学	データ活用入門A	前期	学部2～4年次
室蘭工業大学	情報セキュリティ特論	前期	博士前期課程1年次・2年次
北見工業大学	情報セキュリティ基礎	前期	学部2年次
	情報セキュリティ特論	前期	博士前期課程1年次
	PythonプログラミングⅡ	前期	情報デザイン・コミュニケーション工学コース 学部3年次
	ソフトウェア工学	後期	情報デザイン・コミュニケーション工学コース 学部3年次
北海学園大学	基礎演習	前期	学部1年次
北海道科学大学	AI入門	前期	工学部情報工学科2年次
	ソフトウェア工学Ⅱ	後期	工学部情報工学科3年次
	データサイエンス	後期	情報科学部情報科学科1年次
苫小牧工業高等専門学校	道内DX企業見学会	後期	第3学年
旭川工業高等専門学校	数理・データサイエンス	後期	第3学年

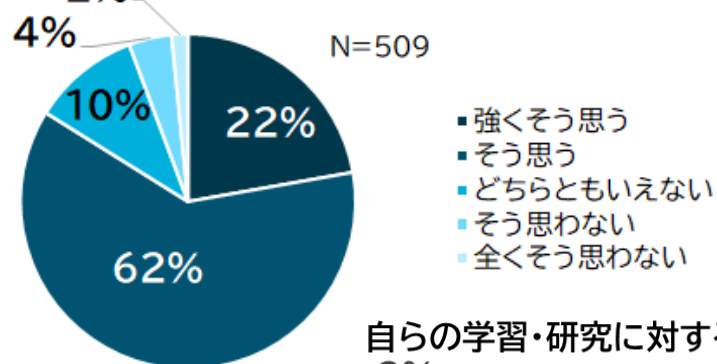
※実務家教員派遣の希望はあるものの、新年度の時間割等が決まっていないことから提出を見送った大学・高専が複数あり。
2025年度に改めて実施する希望調査においてマッチング予定。

〈資料3〉 大学・高専への実務家教員の派遣に係るマッチング アンケート結果

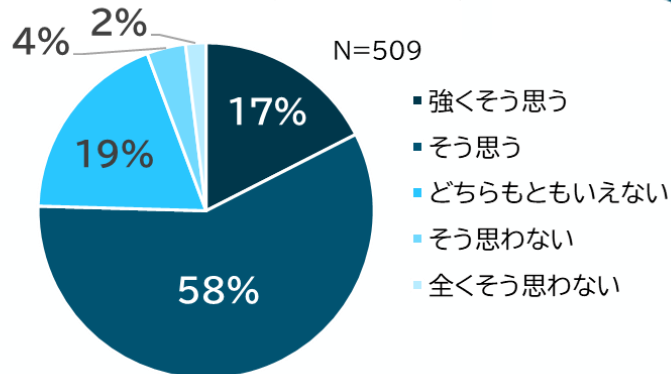
- 学生の講義への参加・学習意欲を高めたなどの結果が得られ、大学等が期待した講義内容を実務家教員が提供することができ、当初の目的を果たすことができた。また、企業の実際の実組や事例が企業への関心を高めるといった効果も見られた。
- 一方、企業は、特に事前準備に課題を感じており、講義レベルを合わせるための打合せやデモ講義など、企業と大学等との事前調整が必要である。

【学生アンケート結果】

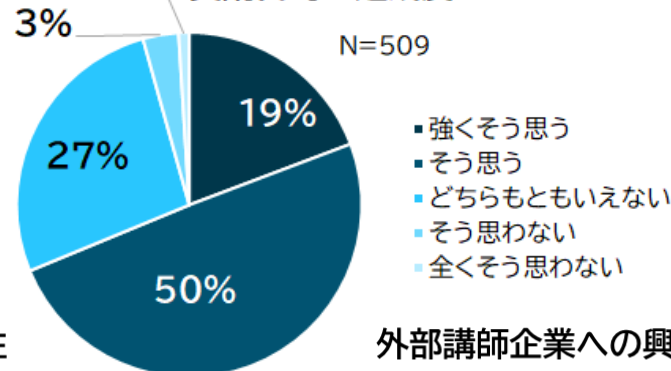
講義の難易度の適切性



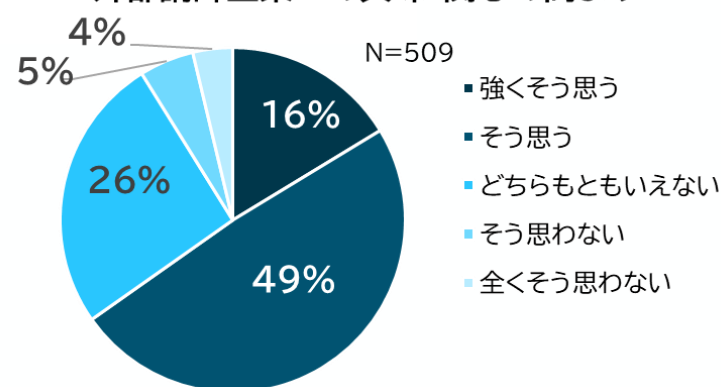
自らの学習・研究に対する貢献性



受講目的の達成度



外部講師企業への興味・関心の高まり

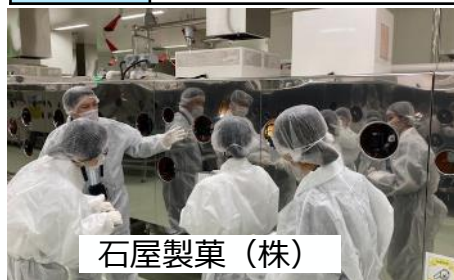


※本結果は、8講義分のアンケート結果を単純に積み上げたものです。そのため、講義ごとに内容やレベルが異なり、また受講した学生もそれぞれ異なることから、直截的な解釈は避け、参考値としてご覧ください。

〈資料4〉 苫小牧工業高等専門学校「道内DX企業見学会」

- ・ 苫小牧工業高等専門学校からの要望を受け、同校のカリキュラムの強化及び企業との接点づくりを目的に「道内DX 企業見学会」をモデル開催。
- ・ 2社の現場を見学し、**学生がデジタル技術に触れることで、実践的なデータサイエンス技術の理解促進を図る。**企業見学会後には、当該企業への**インターンシップ**につなげることで、企業や業界への理解を深め、道内企業への就職促進も図る。
- ・ **学生の理解度・満足度は非常に高かった。**また、**企業への興味・関心を高められ、インターンシップにつながる兆しも見られた。**

日時	2025年2月13日(木)
場所 内容	・ 石屋製菓（株） 北広島工場 ➢ 白い恋人のDX オートメーション製造ライン など ・ 伊藤組土建（株） 最上トンネル工事 ➢ トンネル工事におけるデジタル空間を活用したMR（複合現実）事例 など
参加 学生	・ 2・3年生のうち、参加者20名 ・ 学科は機械系、都市環境系、応用化学・生物系、電気電子系、情報科学・工学系と様々 ※参加学生は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）のカリキュラムの受講生



石屋製菓（株）



伊藤組土建（株）

カリキュラム強化と道内企業への就職促進をシームレスに結びつける取組

AI・DS講義

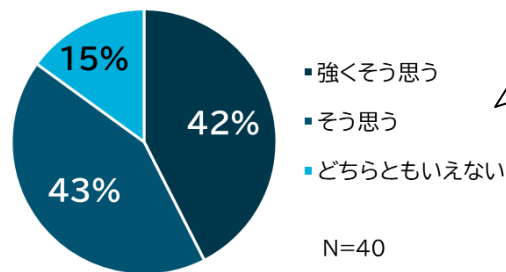
DX企業見学会

インターン

就職

【参加学生へのアンケート結果】

見学先企業への興味・関心の高まり



〈学生のコメント〉

- ・ 今まで視野に入れていなかった分野であったが、**今回の見学で企業に興味を持った。**
- ・ 実際に見たことで、企業がどのような活動を行っているのかが、**具体的に理解できたため。**

見学先2社への
インターンシップ希望者数

のべ **19** 名

〈学生のコメント〉

- ・ 今回の見学会を通して、**見学先の企業に興味を持ったため。**
- ・ 社員の話を聞いて、**雰囲気良さそうと感じたため。**

【参考】伊藤組土建が本取組を紹介した記事

<https://www.itogumi.co.jp/news/detail.php?eid=00389>



※本結果は、見学先2社のアンケート結果を単純に積み上げたものです。見学内容が異なるため、直截的な解釈は避け、参考値としてご覧ください。

2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】

④道内企業（社会人）のリスキリングの推進

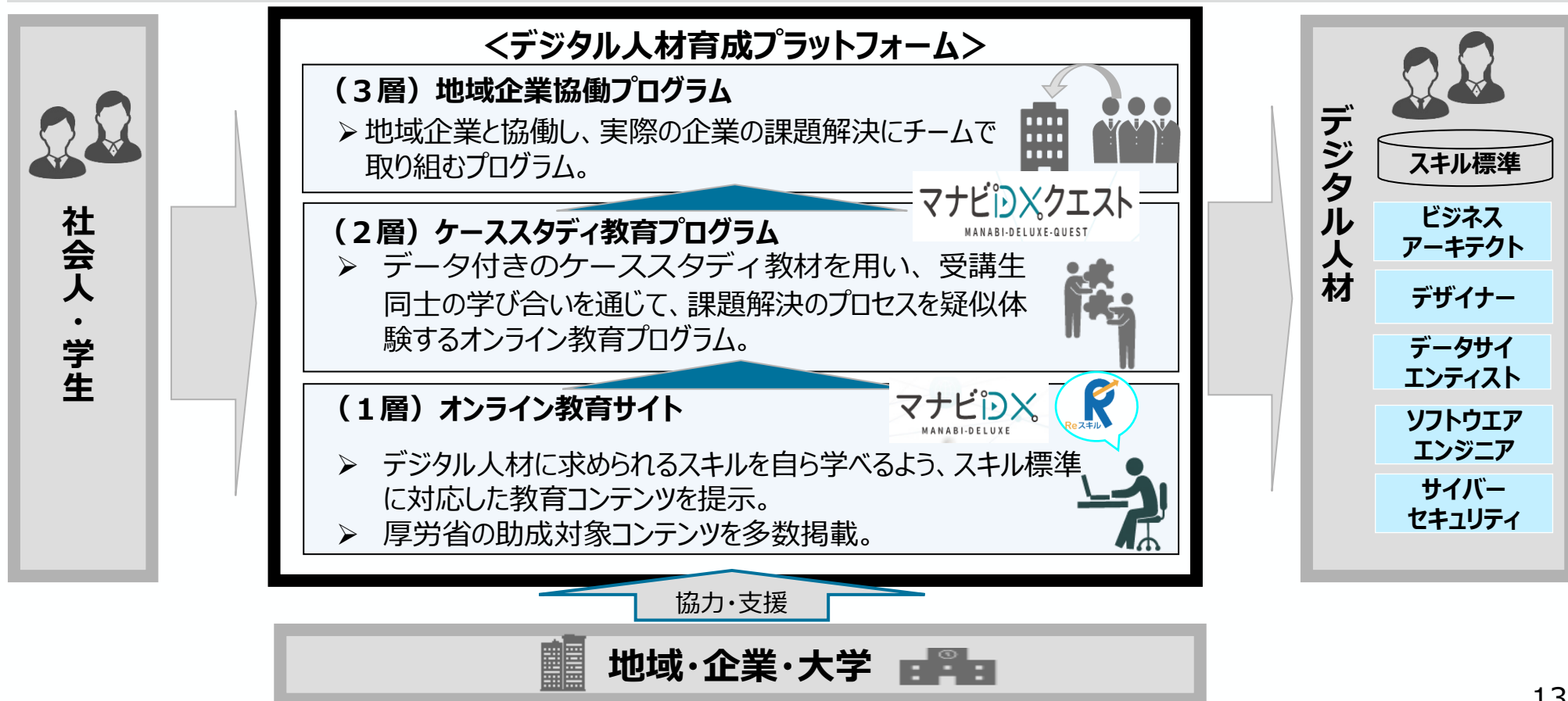
(ア) 北海道大学デジタルリスキリングプログラム(DREP) (イ) 経済産業省「マナビDX」「マナビDX Quest」

目的	地域における人材全体のデジタルスキルレベルの底上げとデジタル中核人材の育成
講義メニュー	4ステージ・5コースで構成 ①ステージ1：デジタルリテラシーコース ②ステージ2：データ活用演習コース ③ステージ3：AI演習コース ④ステージ4-1：地域課題解決コース(1) ⑤ステージ4-2：地域課題解決コース(2) ※①は数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラムに準拠 ※①～③はデジタルスキルの底上げ/オンデマンド形式。④⑤は学生もしくは教員と共に受講生がデータを活用し課題解決に取り組むことでデジタル中核人材を育成/オンライン形式 ※④⑤は①～③の修了生が対象 ※2024年10月1日からDREPサイト開設、受講開始
登録状況	協定締結数：65企業・団体 受講登録者数：2,130名 ※当協議会経由申込数：14企業・団体（2025年2月28日時点）

目的	地域企業・産業のDXの実現に向けたデジタル人材の育成
講義メニュー	①「マナビDX」 民間企業が提供するe-ラーニングコンテンツのポータルサイト ②「マナビDX Quest」ケーススタディ教育プログラム 課題解決のプロセスを疑似体験するオンライン教育プログラム ③「マナビDX Quest」地域企業協働プログラム 受講生がチームを作り、実際の企業の課題解決に取り組む研修プログラム ※③は、原則②の修了生が対象 詳細は＜資料5＞参照
受講状況	②：全国2,442名が受講、うち道内は36名 全国受講者のうち社会人の割合90.8% ③：全国516名が受講、うち道内は9名

<資料5> 経済産業省「マナビDX」、「マナビDX Quest」について

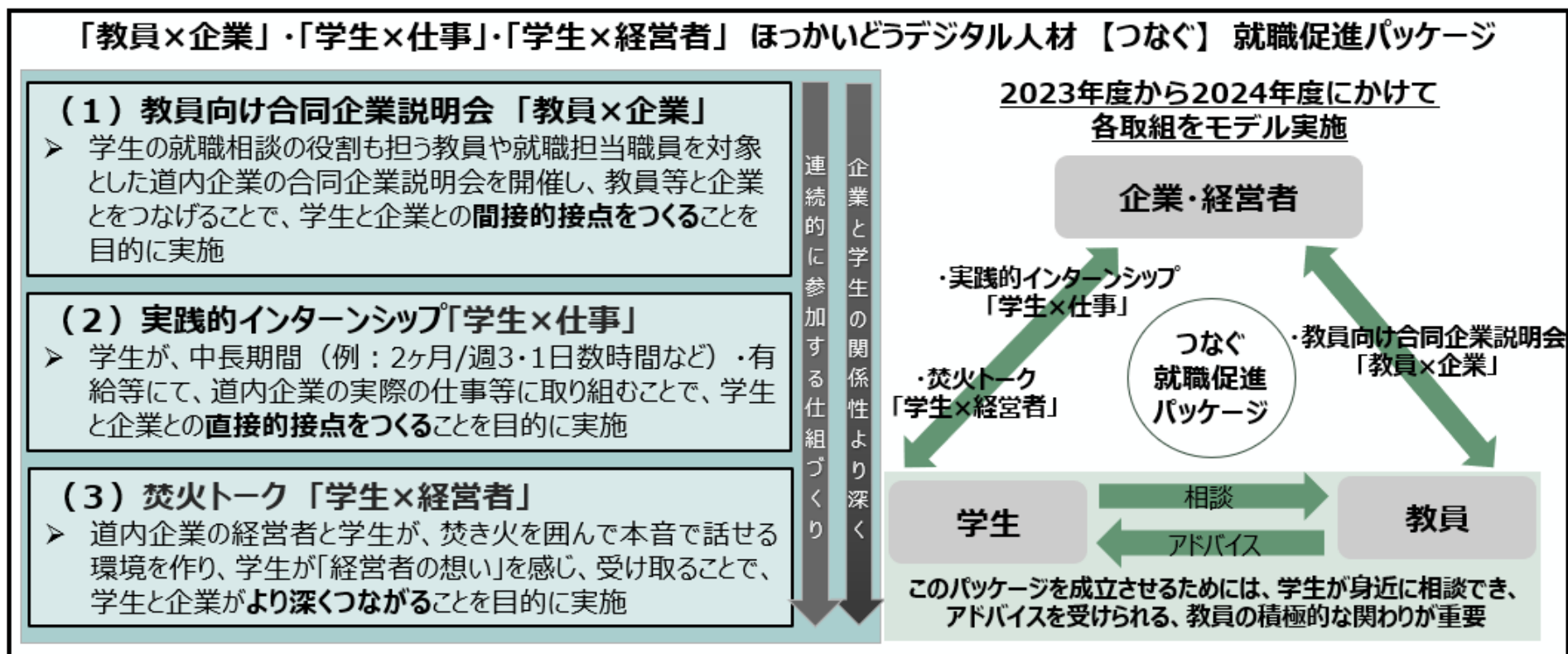
- デジタル田園都市国家構想の実現に向け、**地域企業のDXを推進するデジタル人材を育成するプラットフォーム**を構築し、**企業内人材（特にユーザー企業）**や**個人のリスキリング**を推進。
- 民間企業等が提供する**教育コンテンツ・講座を一元的に集約・提示するポータルサイト「マナビDX」**の整備に加えて、「マナビDX Quest」（**ケーススタディ教育プログラム及び地域企業協働プログラム**）を提供し、DXを推進する実践人材を育成。



3. 道内企業への就職促進【取組3】

① 道内学生と企業との接点拡大への取組

- ・ 「道内企業をあまり知らない」などを理由に、大学生・高専生が道外へ流出。
- ・ 道内企業の認知度向上を目的とした企業・経営者・教員・学生との接点づくりを「ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージ」として実施し、相乗効果を狙う。



②教員向け合同企業説明会「教員×企業」

- ・企業と教員の接点づくりは、**産業界及び教育界の双方から強いニーズあり**。
- ・学生にとっても就職活動方法が多様化する中、**身近に相談できる教職員の存在は依然として重要**。
- ・2023年度は、企業と教職員を対象とした合同企業説明会をオンラインで実施（8校・18社が参加）。
- ・2024年度は、昨年度実施時に行ったアンケートの結果を踏まえ、**取組内容の見直しを行うとともに、規模を拡大して開催（オンライン開催、10校・25社が参加）**。

合同企業説明会に向けた 事前サポート

- ① 本説明会の参加企業を対象に企業の強みを明確に伝えるためのオンライン事前研修を実施（講師は右下参照）。
▼＜オンライン研修会＞
テーマ「学生・教職員を惹きつけるプレゼン方法」
・8月22日（木）
・デジタル人材を採用したい道内企業
25社が参加
▼＜オンライン個別相談会＞
プレゼン資料の添削などに講師が個別対応
・9月5日（木）
・上記オンライン研修を受講した企業のうち個別相談を希望した5社が参加
- ② 教職員を対象に企業の基礎情報をまとめた資料を事前に配布

合同企業説明会の開催

- ① 企業と教職員を対象とした合同企業説明会をオンライン実施
▼「自社のデジタル化・DXの取組や新卒者への期待」等を説明
・9月25日（水）、26日（木）
・オンライン開催
・参加企業：25社＜資料7＞参照
・参加教職員
協議会参画の大学・高専の教員・就職担当職員など
参加数：10校・17名

デジタル人材の採用を希望する企業とつながる **合同企業説明会**

参加教員・職員募集 参加 無料
オンライン開催

道内大学・高専の教職員の皆さまを対象に、デジタル人材の採用を希望する道内企業による合同説明会を開催します。道内・地元志向の学生に加え、U/Iターン希望の卒業生への企業紹介、就職相談等のアドバイスに活用できる情報が得られる絶好の機会となりますので、ぜひご参加ください。

企業と教職員の さらなる接点づくり

- ① 企業と教職員が相互に連絡を取れるよう、連絡先一覧を共有
- ② 教職員ができる限り多くの企業の説明を聴講できるよう、アーカイブ配信を実施

- オンライン事前研修 講師
キャリアフォローアカデミー（株）
国家資格
2級キャリア
コンサルティング技能士
藤塚 優子 氏

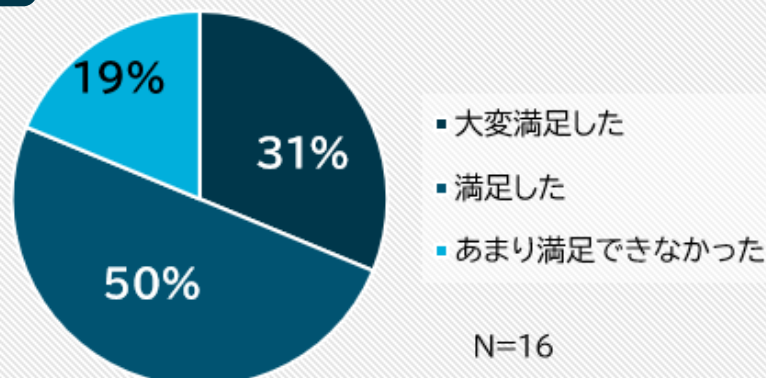


〈資料6〉 教員向け合同企業説明会「教員×企業」 アンケート結果

- 企業と教職員双方で有効性を確認でき、道内企業と教職員の接点づくりに貢献。企業の高い満足度は、オンライン事前研修が既存企業説明資料等の改善に寄与したことが一因と考えられる。
- ただし、企業からは「教職員の反応がわからない」、「参加者の反応を見ながら説明を進めたい」等の意見があり、開催方法を再度検討する必要がある。

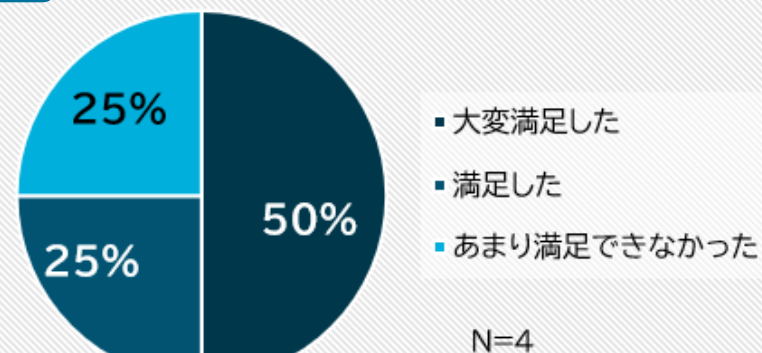
企業

説明会参加の満足度



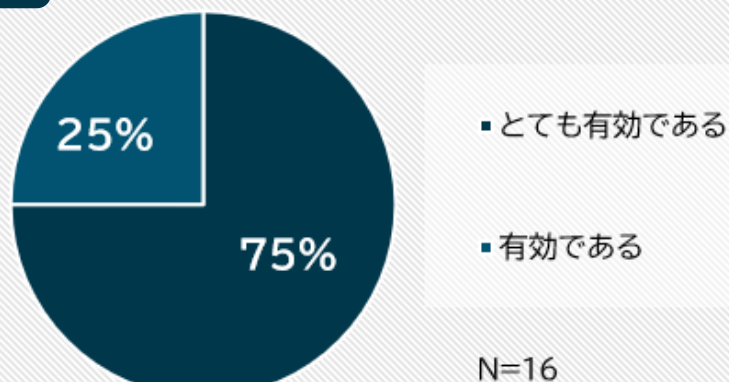
教職員

説明会参加の満足度



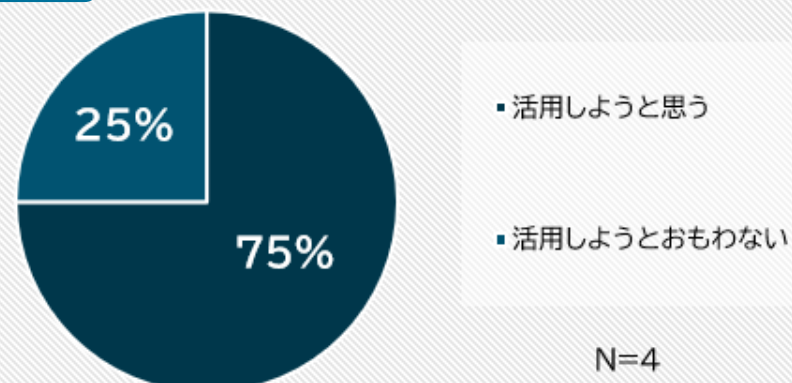
企業

教職員との接点づくりの有効性



教職員

今後、企業情報を活用するか



<資料7> 教員向け合同企業説明会タイムテーブル

オンラインルーム1（情報通信業）				
時間	DAY1(9/25)		DAY2(9/26)	
13:00	インディゴ（株）	情報通信業	（株）つうけんアドバンスシステムズ	情報通信業
13:30	（株）インプル	情報通信業	（株）ドコモCS北海道	情報通信業
14:00	（株）HDC	情報通信業	フュージョン（株）	情報通信業
14:30	（株）AIS北海道	情報通信業	北洋システム開発（株）	情報通信業
15:00	エコモット（株）	情報通信業	ほくでん情報テクノロジー（株）	情報通信業
15:30	（株）キットアライブ	情報通信業	（株）北海道キューブシステム	情報通信業
16:00	（株）シイエヌエス北海道	情報通信業	（株）マイクロソフトウェア	情報通信業
16:30	ダットジャパン（株）	情報通信業	（株）メディア・マジック	情報通信業
17:00	（株）流研	情報通信業	—	—

オンラインルーム2（情報通信業以外の業種）				
時間	DAY1(9/25)		DAY2(9/26)	
13:00	伊藤組土建（株）	建設業	—	—
13:30	シンセメック（株）	製造業	北海道旅客鉄道（株）	運輸業・郵便業
14:00	（株）NICHIGO	製造業	北海道イシダ（株）	卸売業・小売業
14:30	北ガスジェネックス（株）	電気・ガス・熱供給・水道業	（株）エルムデータ	その他（電子機器製造業）
15:00	北ガスフレアスト（株）	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—

※参加企業の所在地は、石狩市に本社を置くシンセメック（株）以外は、すべて札幌市

③実践的インターンシップ「学生×仕事」

- ・首都圏で行われているインターンシップは、プログラムの目的・内容が明確で、学生が習得できるスキル等がイメージしやすい。これが理由で学生の道外流出が起こっているのではないか。
- ・この状況を踏まえ、一般的なインターンシップとは目的を異にした「職場体験」と、参加学生のスキルアップに重きを置いた中長期的なプログラムを実施（3社参加、現在2社で実施中）。
- ・企業側は学生との早期接点の創出、インターンシップノウハウの取得、学生を受け入れることでの企業の研修プログラムの構築の場として活用。

内容	一般的なインターンシップとは目的を異にした「職場・職業体験」（デジタル、DX業務）を中長期的に行うプログラム		
参加企業	（株）プリズム・メディカル（札幌市）	（株）メディア・マジック（札幌市）	東興アイテック（株）（函館市）
参加学生	北海学園大学大学院修士1年 1名	北海道科学大学 学部1年 1名	募集中
コーディネータ	・ コーディネータは、NPO法人北海道エンブリッジ 代表理事 浜中裕之氏 ・ 学生募集前に企業側のプログラムづくりをサポート ・ 実施期間中も事務局と連携し、学生及び企業をサポート		
本インターンシップの特徴	・ 1か月程度、企業の魅力的なプログラムを通じて学生が実践的な「職場や職業の体験」を実施。 ・ コーディネータが企業のプログラムの構築と学生募集要項の作成をサポート。 ・ また、中長期間のインターンシップのノウハウを短期インターンシップにも活用可能。 ・ 学生は社会に出て働く貴重な経験を得ることで、自身のスキルアップにつなげることが期待できる。 ・ 学生募集は、協議会に参画している大学・高専の教職員等を通じて周知。 ・ プログラム実施期間中は、コーディネータが企業と学生をサポート。		

③実践的インターンシップ「学生×仕事」

企業のプログラム構築・ 学生募集要項作成支援

- ・ 参加企業と打合せを実施し、インターンシッププログラムの構築と、募集要項作成をサポート
- ・ インターンシップ受入時の面接や受入後の学生対応に関するポイントをレクチャー

学生募集要項を 教育機関へ提供

- ・ 本協議会参画の大学・高専での幅広い全学周知と、教員からの直接的な声かけによる個別周知により学生を募集

実践的インターン シップ実施

- ・ 約1ヶ月の受入
- ・ プログラム実施期間中も、企業及び学生のサポートを実施

実際のプログラム紹介

(株) プリズム・メディカル

「医療×デジタルで医療現場の未来を拓く！ 皆さんが学校で学んだ経験とデジタルツールを、ソフトウェア開発現場の“本物”のプログラミング研修を通してスキルアップしませんか？」

内容：自社の業務をモデルにしたアプリケーションの開発プロジェクトに取り組む

(株) メディア・マジック

「ITエンジニアを目指そう！ 皆さんが学校で学んだ経験とアイデアを活かし、システム開発現場の“本物”のアプリ開発研修を通してスキルアップしませんか？」

内容：リアルタイムでメッセージをやり取りできるチャットアプリの開発を体験

東興アイテック (株)

「建設×デジタルで未来を拓く！ 皆さんが学校で学んだ経験と各種デジタルツールを使って実際の企業のデジタル化・DXを社員と一緒に進めませんか？」

内容：資材在庫管理をデジタル化し、業務効率化を目指すアイデアソン型プログラム

〈資料8〉実践的インターンシップ「学生×仕事」学生募集要項の紹介

医療×デジタルで医療現場の未来を拓く！皆さんが学校で学んだ経験とデジタルツールを、ソフトウェア開発現場の“本物”のプログラミング研修を通してスキルアップしませんか？

株式会社プリズム・メディカル「募集要項・プログラム詳細」



企業名	株式会社プリズム・メディカル
所在地	北海道札幌市中央区北4条西16丁目1
主な事業内容	医療現場向けソフトウェアの開発・販売
プログラム	当社の業務をモデルとしたアプリケーションのアルファ版開発プロジェクトに取り組みます。複数の中から、興味ある内容を選択して、計画の立案から設計、開発までを行う予定です。

プリズム・メディカルってどんな会社？

私たちは札幌市に本社を構え、医療現場の負担を軽減するための使いやすい医療用ソフトウェアの開発に取り組んでいます。1997年の設立当初は、さまざまな業界向けのソフトウェア受託開発業務を請け負っていましたが、2006年に医用画像配信システムを開発したことを契機に、医療施設向けの業務支援ソフトウェア開発に特化しました。例えばレントゲン画像を同時に表示・管理できるシステムを開発し、愛育病院（札幌市）、利尻島国保中央病院（函館市）など、道内だけでなく50施設以上への導入実績があります。

社員の半数以上は20～30代の若手であり、日々真剣に業務に取り組んでいます。プログラミングが本当に好きな社員、さまざまなバックグラウンドを持つ社員が在籍しており、誰もが安心して働ける環境を目指しています。さらに、東京にもオフィスを構えており、道外にも事業を展開しています。最終的な目標として、景気に左右されない堅実な会社経営を目指します。

インターンシッププログラム

ソフトウェア開発ってなに？

映画、テレビドラマなどで目にするIT業界のイメージと、ソフトウェア開発の実際の現場は少し異なります。例えばソフトウェア開発者が担う業務範囲は、プログラミングによる開発業務だけではなく、お客様が抱える課題を把握するため、現場訪問を通じてヒアリング（要件を聴く）や、インターネット上の市場動向調査、導入後のアフターフォロー（トラブル対応）など、多岐にわたります。

当社のソフトウェア開発の特徴は？

医療現場で使用されるソフトウェアは、患者様の生命や健康に直接影響を与えるため、安全性と信頼性が求められます。私たちはソフトウェアの不具合を防ぐために技術力を高め、品質管理を徹底し、使命感を持って業務に取り組んでいます。また、業界研究に取り組み、医療現場のニーズを聞き、便利な機能や使いやすいインターフェースを設計することで現場の作業負担の軽減を実現しています。さらに、お客様より定期的なフィードバックを受け、継続的な改善により、機能追加やカスタマイズ等のサポートも柔軟に対応しています。

皆さんに取り組んでほしいこと・お願いしたいこと

今回のインターンシップでは、将来ソフトウェア開発の分野で活躍したいと考えている学生の皆さんに、私たちの業務をモデルとしたアプリケーションのアルファ版開発プロジェクトに取り組んでいただきます。このプロジェクトでは、ポートフォリオ向けの小規模なアプリケーションの開発を行います。興味のある内容を選択して、計画の立案から設計、

開発まで行う予定です。ソフトウェア開発は単にプログラミングを行うだけではないことから、ボンチ絵や構成図を基に、当社の社員に対してヒアリングを行い、使い勝手を向上させるために必要な機能や機能を省くべき部分などの情報を収集し、設計に反映させるなど、より効果的で実践的なアプリケーションの開発を目指します。また、期間内に完了できるような、機能の優先順位をつけて、取捨選択を行い、WBSやガントチャートで進捗を管理します。期間内にリリースすることは想定していませんが、優良なプログラムの基礎ができれば、そこから先輩社員たちが発展させる可能性もあります。

アプリケーションの作成にあたっては、年齢の近い20～30代の先輩社員が丁寧に指導し、皆さんのインターンシップをサポートします。また、毎週金曜日に開催される社員向けの勉強会では、プログラミングの情報だけでなく、医療関係の業務知識を得ることができそうです。

完成したアプリケーションは、GitHub上に公開できますので、ポートフォリオとして、就職活動に活用していただけます。

私たちはこんなチームです！

ITのチカラで生命を守る医療現場を支える

皆さんが日常生活の中で、医療機器業界を自覚する機会は少ないと思います。しかし、この業界は、医師や看護士などの医療従事者とともに、人の命を救うことや健康を支えることに貢献することができる業界の一つなのです。私たちが提供するプロダクトは主に人の命を預かる医療現場に導入されるため、ゲームアプリなどの開発と異なり、医療ミス、事故に直結する責任ある業務です。

このように大きな責任が伴う一方で、診断の精度向上や医療現場の負担軽減など、人命を守ることに貢献できるというやりがいを感じることができそうです。多様な医療現場を支えるため今後も成長し続け、お客様に価値を示し続けてまいります。

受入れ企業からのメッセージ

誰もが社会人になる前は、色んな事が不安です。弊社で、不安の一つ一つを解決していきますよ。

技術担当 野田和典 / 人材育成担当 奥田和樹 / インターン受入担当 山田和志（写真：後列右）



プリズム・メディカル「実践的インターンシップ」募集要項

募集対象	募集人数：1名 対象年次：高専1～5年、高専専攻科1～2年 大学1～4年、大学院修士1～2年、博士1～3年（医学・理学関係のみ）
期間	2025年2月上旬から1か月程度 ※受入時期、期間は相談のうえ、決定します。 先輩社員と一緒にC#アプリケーションのアルファ版開発プロジェクトに取り組んでいただきます。 ※1：技術スタック（※取り組む内容により変化する） Windows, Linux(Ubuntu), VisualStudio, VSCode, C#13, .NET9, WPF, MVVM, DI, DB(PostgreSQL), gRPC, Serilog, WEB(Azure, Blazor, Minimal API, HTML, CSS, JS, ngix, OJDC), AI(SemanticKernel, ChatGPT), MAUI(Android, iOS, GitSourceTree, WinMerge), Markdown(Mermaid), draw.io, ER図(AEM2), 医療画像(DICOM, HL7, SS-MX2, 3値2Dガイドライン), etc...
活動内容	▼ステップ1：当社の概要説明と開発環境の構築（目安：1日） ＜目標＞ ・経営方針や業務内容・流れ、業務にあたる姿勢などを説明し、仕事を行ううえでの責任感などを理解いただきます。 ・実機または仮想マシン（VM）上での開発環境の構築 ・Microsoft 365, GitHubへの登録とリポジトリの作成 ＜成果物＞ ・GitHub上のページ ▼ステップ2：開発・プログラミングへの理解（目安：4日） ＜目標＞ ・プログラミング言語の理解と練習に取り組んでいただきます。先輩社員によるコードレビューを行います。 ＜成果物＞ ・GitHub上のリポジトリ（作成したアプリケーション） ▼ステップ3：アプリケーションの作成（目安：10日） ＜目標＞ ・先輩社員と相談して、いくつかの候補の中から興味のある内容※を選んで、計画の立案から設計、開発まで行います。 ・当社の社員（役員、中堅社員、若手社員の3名）に対してヒアリングを実施し、使い勝手を向上させるためにどのような機能が求められるか、また機能を省くべき部分はないかといった情報を収集し、これらの情報を整理、設計に反映させることで、より効果的なアプリケーション開発につなげます。 ・最後は作成したアプリケーションの特徴を先輩社員達に説明し、フィードバックをもらいます。 ＜成果物＞ ・GitHub上のリポジトリ（作成したアプリケーション） ※2：アプリケーションの開発経緯 （※）医用画像ビューワー、患者情報管理、院内チャット、院内掲示板、郵便番号CSVダウンロード・インポート、TODD管理、電卓、OXゲーム、天気予報、パスワード暗号化、ラベンダータイマー、かなローマ字変換、URLエンコーダー、etc...（※）
得られる経験	■インターンシップ実施期間中は、20～30代の先輩社員がマンツーマンでサポートします。ソフトウェア開発における計画の立案から開発までの一連の業務プロセスを無理なく経験できます。 ■先輩社員と一緒に取り組めることで、社会人としてのコミュニケーションスキルの向上が期待できます。 ■アプリケーション作成から完成までの一連の流れを体験することで、プログラミングやプロジェクト管理の経験が身につくため、ソフトウェア業界での就職活動などに活かれます。
応募条件	＜必須＞ ■汎用的なPCスキルがある方 ■プログラミング経験者（言語不問） ■プログラミングが「本当に」好きな方 ＜推奨＞ ■C#またはJavaの経験がある方 ■活動場所へ通える方（札幌近郊にお住まいの方） ※通方にお住まいの方など、自宅からのテレワークは応相談
活動条件	コミット時間：週4～5日程度（6～8時間/日） ※活動時間は応相談 活動可能時間：平日8:30～17:30 備品提供：活動に必要なPC、モニターなどの機材・備品は貸与 ※自宅からのテレワークは応相談
活動場所	北海道札幌市中央区北4条西16丁目1番地（株式会社プリズム・メディカル 札幌本社） 最寄り駅：＜札幌市営地下鉄＞東西線・西18丁目駅 徒歩10分 ＜JR＞桑名駅 徒歩15分 ※自宅～最寄り駅までの交通費支給あり（上限額：1,000円/日）
選考方法	①エントリー終了後、これまでに制作したソースコード（ZIPファイルなどにしたもの）を下記メールアドレス宛に提出してください。 ＜提出先メールアドレス＞digital@htrci.co.jp ②エントリーフォームの記入内容、提出いただいたソースコードをもとに、1時間程度の面談（対面orオンライン）を実施します。

④焚火トーク「学生×経営者」

- デジタル人材を採用したい道内企業の経営者とデジタル分野で活躍したい学生がより深くつながることを目的に、**焚火を囲んで本音で話す「焚火トーク」を実施。**
- 2023年度の釧路市での開催結果を踏まえ、**2024年度は、（一社）北海道商工会議所連合会とともに、札幌市、北見市、函館市で本格実施（企業11社・学生36名参加）。**
- 道内中小企業への関心を高めるとともに、学生の就職に対する目線を地元企業に向けさせることができたなど、一定の成果が得られた。**

地域	日時・場所	参加学生	参加企業（経営層）	共催
札幌	2024年7月21日（日） 北海道経済センター8階 第3会議室 ※強風のため、屋外の会場で 焚火ができず、室内に変更。	 北海道大学 4名 室蘭工業大学 1名 千歳科学技術大学 1名 札幌大学 3名 北海学園大学 3名	システムデザイン開発(株) トダテック（株） 丸美珈琲（有） （株）ヤブシタ	札幌商工会議所青年部
北見	2024年10月24日（木） 北見工業大学 駐車場 ※北見市の地域性を活かし 「焼肉トーク」として開催	 北見工業大学 15名	（株）システムサプライ （合）Fertility （株）Rogical	北見商工会議所、 北見商工会議所青年部、北見地域 DX推進ラボ
函館	2024年11月5日（火） JUNファームキャンプ場	 北海道大学 水産学部 1名 はこだて未来大学 5名 函館工業高等専門学校 3名	（株）エスイーシー （株）翔大鋼業 東興アイテック（株） （株）道南メディカル	函館商工会議所、 函館商工会議所青年部、函館市、函 館市DX推進ラボ

参加学生 合計36名

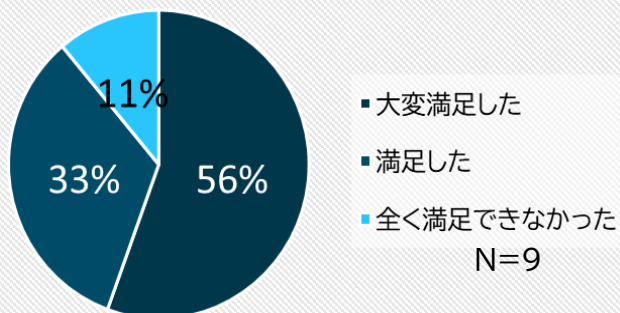
参加企業 合計11社

〈資料9〉 焚火トーク「学生×経営者」 アンケート結果

- 「企業説明会では聞けない経営者の生の声や踏み込んだ話を聞くことができた」との学生からのコメントがあり、焚火を囲んだリラックスした雰囲気づくりが好影響を与えたものと考えられる。
- この結果、多くの学生が地域の企業の多様な事業内容に興味を持つようになり、道内中小企業への関心を高める結果となったものと思われる。
- 一方、経営者の満足度は高かったものの、自社の魅力をうまく伝えられなかったと感じる企業もあり、自社の魅力をより効果的に伝える方法について再考する必要がある。

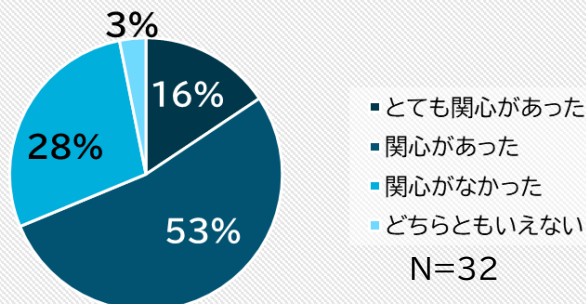
経営者

満足度



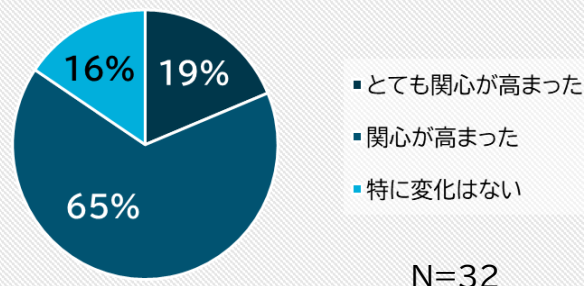
学生

参加前の道内中小企業への関心度



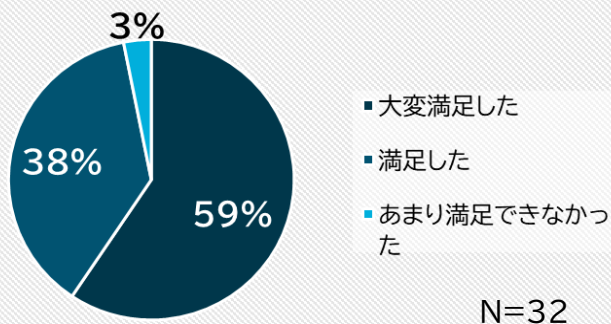
学生

参加後の道内中小企業への関心度



学生

満足度



〈補足〉

参加前に「関心がなかった」・「どちらとも言えない」と回答した10名のうち8名が参加後は「関心が高まった」と回答。

⑤U・I・Jターン希望者への情報発信

- ・ 即戦力となるデジタル人材を求める企業が一定数あり、中途採用で確保することが一般的。しかし、道内企業においては計画通りに採用できていない状況。
- ・ 2024年度は、中途採用等にも対象を広げ、中途採用と親和性のあるU・I・Jターン希望者を対象としたイベントを北海道とともに開催（3社参加）。併せて、イベント参加に係る周知を実施。

北海道の仕事と暮らしセミナー～デジタルなお仕事 IT企業編～

日時・場所	2024年10月22日（火）／オンライン開催
参加企業	（株）キットアライブ【ソフトウェア・システム開発】 FPTニアショアジャパン（株）【ソフトウェア・システム開発】 フュージョン（株）【情報通信・専門コンサルティング】
内容	● 移住関心層を対象に業務内容、やりがい等を紹介 ● 「デジタルなお仕事」をテーマとし、IT企業の業務に興味を持つ方々が参加 ● 企業は、北海道のIT企業の独自の取り組みや、業種の特徴・現状等について説明
主催	北海道
共催	北海道デジタル人材育成推進協議会 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター
参加企業アンケート結果	・ 登壇企業3社は「満足」と回答 ・ 「北海道への移住やUIターンに関心を持つ方々と直接接することができ、自社を一度に多くの方にアピールする貴重な機会となった」との回答があった

北海道U・Iターンフェア2025

日時・場所	2025年3月1日(土)／東京都
出展企業	道内企業30社
内容	● 北海道へのU・Iターン就職を希望者（学生含む）を対象に企業ごとにブースを設けて対面で企業説明等を行うフェア ● 当協議会参画の経済団体を通じて周知
主催	北海道労働局



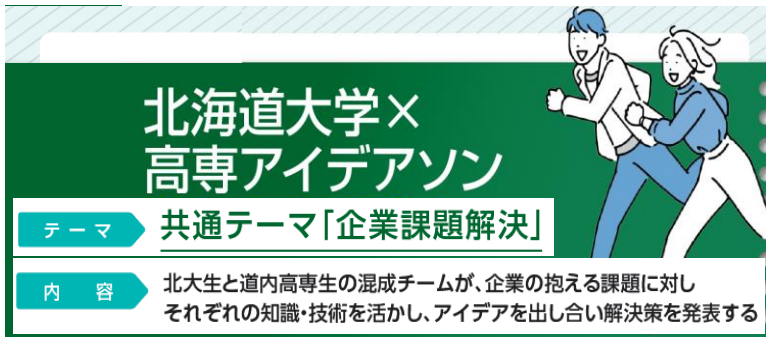
（出所）北海道の仕事と暮らしセミナー
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/ijukouryuu/201872.html>



（出所）北海道U・Iターンフェア
<https://www.hokkaido.ui-turn2025.mhlw.go.jp/>

⑥北海道大学実施のプログラムとの連携（北海道大学×高専アイデアソン）

- 北海道大学は、企業からの課題に対して、**道内の4つの高専の学生が解決策を考える「アイデアソン」を開催**（本協議会は共催）。北海道大学の学生はメンターとして参加。
- 道内高専生及び北海道大学の学生・教員と道内企業との接点を作ることを目的として実施。**あわせて、プログラム内で**企業の実課題解決に挑戦することから、デジタル人材の育成にも寄与。**
- 本協議会に参画する経済団体を通じて募集を行い、**道内企業8社が参加。**

内容	▼2025年3月3日（月）・4日（火）開催（北海道大学 クラーク会館） 1日目：企業側から課題の説明、学生グループによるワークショップ（アイデアソン） 及び懇親会 2日目：学生グループによるワークショップ（アイデアソン）、グループ発表・講評		
参加企業	・（株）アクセスネット ・（一社）エシカルプラス ・北一ミート（株） ・広洋水産（株） ・（株）砂子組 ・大成建設（株） ・トランスコスモス（株） ・北海道旅客鉄道（株） （札幌市） （釧路市） （札幌市） （白糠町） （奈井江町） （札幌市） （札幌市） （札幌市）		
参加学生	▼道内4高専（本科生・専攻科生）及び北海道大学生 計40名程度（北大生はメンター役での参加）		
主催	北海道大学MDSC	共催	本協議会、北海道大学大学院情報科学研究院

（参考）2023年度の北海道大学×高専アイデアソンの様子（出所） <https://hokkaido.kosen-campus.com/2nd/>



4. 定性的評価

- 企業の実課題を用いたPBL及び実務家教員派遣講義は、学習効果が得られており、また2025年度は活用する校数・講義数が増えるなど、**大学・高専におけるデジタル人材育成機能の強化に寄与**。
- 道内企業の認知度向上を目的に、企業・経営者・教員・学生との接点を作る道内企業への就職促進事業を行い、**学生の企業への関心を高めるといった効果を得た**。
- 企業の中には、**上記取組を組み合わせ参加する企業が9社あり、同様に複数の取組に参加する学生も1名いた**。また、**実務家教員派遣講義及びPBLが、企業と教員との強い関係性構築に寄与するとともに、インターンシップなど就職促進との連動を確認**。
- 以上より、当初計画どおりに進行し、かつ有機的に機能し始めており、**デジタル人材育成機能の強化と道内企業への就職促進の取組の同時進行の有効性を確認**することできた。

＜参考＞当協議会事業を組み合わせ活用した企業と学生

企業（9社）

▼PBL× U・I・Jターン

- FPTジャパンホールディングス（株）札幌ニアショア開発センター（札幌市）：情報通信業

▼実務家教員派遣講義×教員向け合同企業説明会

- エコモット（株）（札幌市）：情報通信業
- （株）エルムデータ（札幌市）：情報通信業
- 伊藤組土建（株）（札幌市）：建設業

▼教員向け合同企業説明会×実践的インターンシップ

- （株）プリズム・メディカル（札幌市）：情報通信業
- （株）メディア・マジック（札幌市）：情報通信業

▼教員向け合同企業説明会×U・I・Jターン

- （株）キットアライブ（札幌市）：情報通信業
- フュージョン（株）（札幌市）：情報通信業

▼実践的インターンシップ×焚火トーク

- 東興アイテック（株）（函館市）：建設業

学生（1名）

▼実践的インターンシップ×焚火トーク

- 北見工業大学 3年次 1名

5.KPIの設定に向けた提案

- ・本協議会の成果を定量的に図るために、KPIを設定する。
- ・目標の設定年次は、基準値を置く2023年度から5年後の2028年度とする。
- ・KPI項目の候補は下記のとおり。
- ・本日の本会議で議論し、その結果を踏まえ、2025年度開催のワーキンググループ会議までに設定し、公表を行う予定。

KPI設定イメージ 【取扱注意】下記基準値は、あくまで参考値です。了承後、正式な数値に置き換えます。

	KPI項目	基準値 2023年度	目標値 2028年度	KPIの説明
1	道内大学・高専の情報系学部・学科の卒業・修了者数	(参考値※ ¹) 2,893人	(参考値※ ¹) 3,182人	・基準値出所：当協議会参画大学・高専の情報系学部・学科の卒業・修了者数 ・目標値根拠：2023年度比10%増※ ²
2	道内大学・高専の情報系学部・学科を卒業・修了した学生の道内就職率	(参考値※ ¹) 35.2%	(参考値※ ¹) 38.7%	・基準値出所：当協議会参画大学・高専の情報系学部・学科を卒業・修了し、就職した者のうち、道内企業へ就職した割合 ・目標値根拠：2023年度比10%増※ ²
3	道内IT企業の従業員数	23,575人	25,587人	・基準値出所：北海道IT推進協会「ITレポート」中の「道内IT産業の従業者数」 ・目標値：2023年度比10%増※ ²

(※1) 参考値とした理由：基準値は各大学・高専のホームページ情報の積み上げによるもの。しかし、ホームページだけでは情報系と判別できない場合があり、正確な数値を抽出することができなかったため、「参考値」とした。また、この基準値を基にした目標値もあわせて「参考値」とした。

(※2) 「10%増」とした根拠：「ITレポート」中の「道内IT産業の従業者数」の過去5年間の増加数から、単年度平均値を算出（年377名増）。目標年次まで毎年、同数増加することを見込むと、従業者数は25,146人、伸び率は8.1%となる。当協議会では、さらに1.9%をプラスした10%を目指すこととし、「道内IT産業の従業者数」の目標値の根拠とする。なお、この伸び率は1及び2のKPIにも適用。

2025年度事業方針案

2025年度事業方針案

- 2025年度は、これまでの取組を継続するとともに、デジタル人材育成機能強化と道内への就職促進を連動させた取組に着手する。また、各取組が持続可能なものとなるよう検討を進める。

デジタル人材育成機能の強化

- (1)「既存PBLケースバンク」の活用、大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチングの継続実施
- (2)大学・高専の実務家教員派遣希望に対する企業マッチングの継続実施
- (3)リスキリングに係る北海道大学等が実施するプログラムとの連携

道内企業への就職促進

- (1)「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」
ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージの実施
 - ①教員向け合同企業説明会「教員×企業」
 - ②実践的インターンシップ「学生×仕事」
 - ③焚火トーク「学生×経営者」
- (2)北海道大学等が実施するプログラムとの連携
- (3)北海道へのU・I・Jターン希望者への情報発信

「デジタル人材育成機能の強化」 × 「道内企業への就職促進」

実務家教員派遣に係るマッチング事業とインターンシップとを連動させた「企業見学会」の実施

参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用

- (1)協議会参画機関が実施する、デジタル人材育成に関連する情報等を発信するメルマガの継続配信
- (2)協議会参画機関が提供するプログラムとの連携

来年度のスケジュール（予定）

WG会議：2025年6月頃 本会議：2026年3月頃

參考資料

大学等におけるデジタル関連の教育プログラムの強化

- 「大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」の公募に対し、本協議会に参画する道内大学・高専の中では、2023年度に北海道大学・室蘭工業大学・旭川市立大学・北海道科学大学の4校が、2024年度には北見工業大学、公立千歳科学技術大学、北星学園大学、苫小牧高等専門学校及び旭川高等専門学校の5校が選定された。
- 各大学等は、デジタル関連の教育プログラムの強化に向けて、本事業の活用のほか独自の取組も展開。

1 「大学・高専機能強化支援事業」の選定概要（本協議会に参画する9大学分）

（1）支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等（対象：公私立大学）

	旭川市立大学	北海道科学大学	北星学園大学
選定年度	2023年度	2023年度	2024年度
計画概要	○地域創造学部を新設（2026年度） ・定員：100人 ・「データサイエンス×地域デザイン×マネジメント」の知識を併せ持つ地域イノベーション人材の養成	○工学部情報工学科を「情報科学部」に格上げ ・定員も増（90人→100人）（2025年度）	○「総合情報学部総合情報学科(仮称)」の新設（2027年度） ・定員：100人（予定） ・人文・社会科学の「知」と、デジタル社会に必要な自然科学の「知」を融合した「総合知」を創出し、社会のデジタル人材ニーズに応える学部を構想

（出所：各大学へのヒアリングをもとに北海道経済産業局作成）

大学等におけるデジタル関連の教育プログラムの強化

1 「大学・高専機能強化支援事業」の選定概要（本協議会に参画する9大学分）《続き》

（2）支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（対象：国公立大学・高専）

	北海道大学	室蘭工業大学	北見工業大学
選定年度	2023年度	2023年度	2024年度
計画概要	○大学院情報科学の定員増 ・博士後期課程：43人→48人（2030年度） ・修士課程：196人→229人（2028年度） ○工学部情報エレクトロニクス学科の定員増 ・180人→230人（2024年度） 【「ハイレベル枠」選定案件】	○情報電子工学系専攻に「共創情報学コース」新設 ・博士前期課程（定員15人）（2024年度） 【「一般枠」選定案件】	○工学専攻に「データサイエンスプログラム」新設 ・博士前期課程（定員15人）（2026年度） 【「一般枠」選定案件】
	公立千歳科学技術大学	苫小牧高等専門学校	旭川高等専門学校
選定年度	2024年度	2024年度	2024年度
計画概要	○大学院理工学研究科理工学専攻の定員増と「DXコース」及び「GXコース」の新設（2025年度） ・博士前期課程：20名→60名 ・DXコース40名 ※情報系増員数30名 ・GXコース20名 【「一般枠」選定案件】	○創造工学科に「情報エレクトロニクス系」新設（定員80名）（2026年度） ・第3学年からは「情報科学・工学コース」と「電気情報システムコース」の2コース制 ・なお、現行の電気電子系（定員40名）と情報科学・工学系（定員40名）の再編による新設	○「システム制御情報工学科」を「AI・デジタル情報工学科」及び「ロボット・システムデザイン工学科」に再編・定員も増（定員40人→64人）（2026年度）

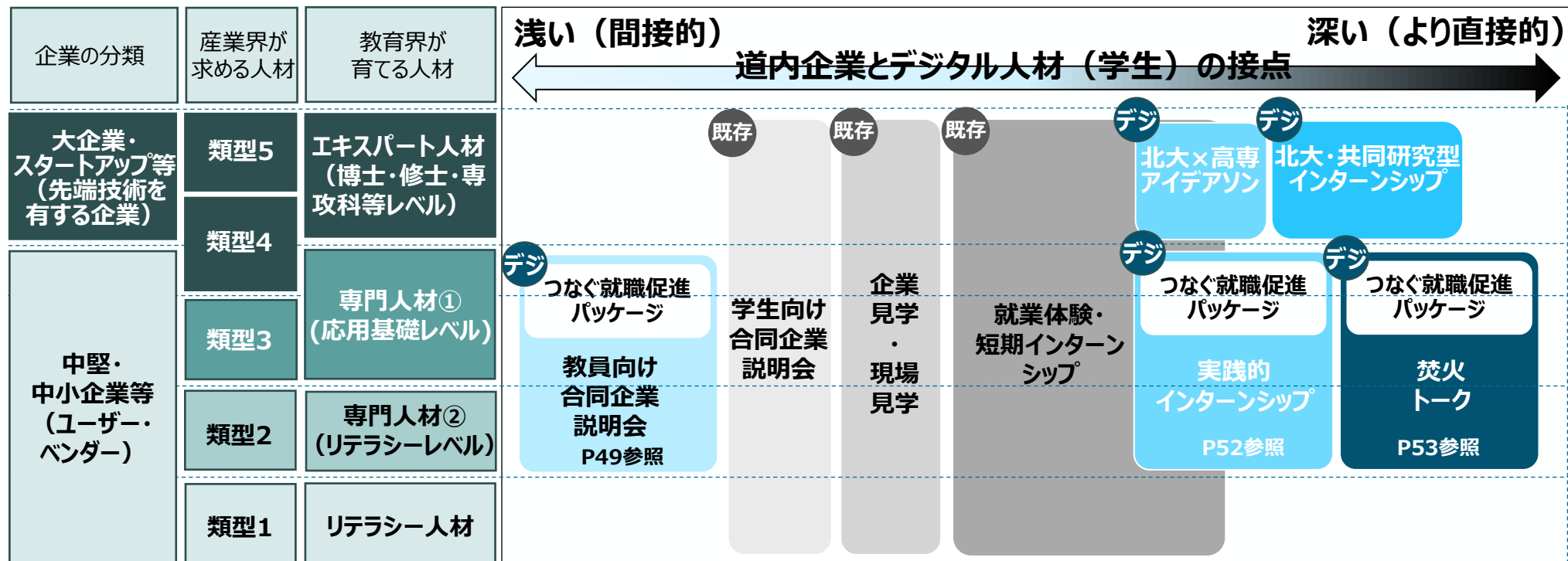
（出所：各大学へのヒアリングをもとに北海道経済産業局作成）

2 個別大学等の独自の取組

- 北海道科学大学：データサイエンスやAIの基礎知識を1年生から学ぶことのできる全学共通必修科目群「HUSスタンダード」（2024年度）

「ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージ」の狙い

- これまで、道内の企業、経済団体、大学・高専等は連携して合同企業説明会やインターンシップ、企業見学等を実施し、道内企業への就職促進に取り組んできた。
- 本協議会は、既存の就職促進の取組よりも対象・領域を広げて、複数の取組をパッケージ化することで、これまで以上に道内企業と学生（教員）との接点を広げ、道内企業への認知度向上・就職促進を進めていく。
- なお、北海道大学が実施するプログラム（「共同研究型インターンシップ」等）とも連携し、プログラムを充実させる。



既存 は、既存の就職促進の取組を表す

デジ は、本協議会が行う取組（他機関と連携するものを含む）を表す